



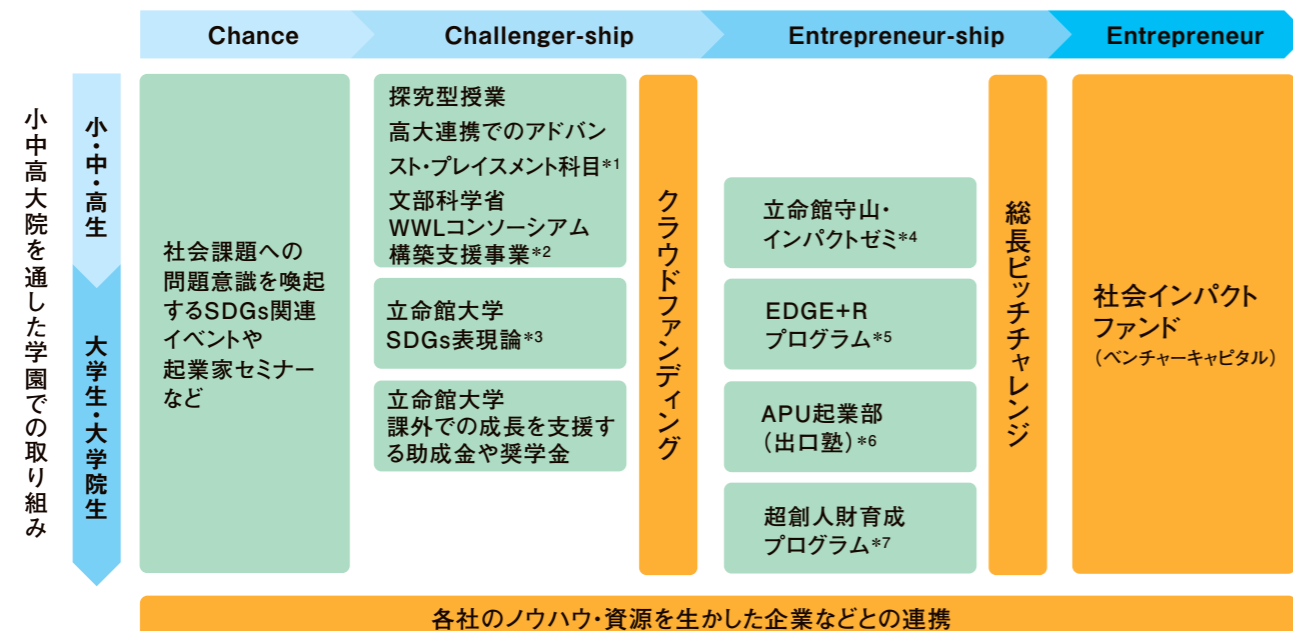
学生数/約35600人
 学部/法、産業社会、国際関係、文、映像、経済、スポーツ健康科学、食マネジメント、理工、情報理工、生命科学、薬、経営、政策科学、総合心理、グローバル教養
 大学院/法学、社会学、国際関係、文学、映像、言語教育情報、先端総合学術、経済学、スポーツ健康科学、理工学、情報理工学、生命科学、薬学、経営学、政策科学、人間科学、テクノロジー・マネジメント
 ▶THE世界大学ランキング2020/1001+位、同アジア版2019/351-400位、同日本版2019/総合33位

狙い ビジネスを通じて社会課題を解決していく人材の育成。
 立命館内外の異種交流を促進し、社会起業家コミュニティを育てる。

社会起業家支援プラットフォーム RIMIX

挑戦から起業までを支援

すでに行われていた取り組み
 新たに立ち上げた取り組み



*1 附属高校と立命館大学が共同で開発・運営する単位認定を伴う科目 *2 ワールド・ワイド・ラーニング。イノベティブなグローバル人材育成を目的として、高校、大学、企業等が協働し、高校生へより高度な学びを提供するしくみを構築する *3 SDGsを一人ひとりがどう捉えるべきかを学ぶ大学の講義 *4 起業家を講師に招いて、イノベーションを起こせる人材の育成をめざすPBL。文部科学省次世代アントレプレナー育成事業に採択 *5 学生の中から起業家を育成する実践型課外プログラム *6 所属研究科での学びに加えて「アクティブライフ」について学ぶ博士課程5年間のプログラム

学生に聞く! 学生・生徒の課題解決アイデアをビジネスに発展させる「総長ピッチチャレンジ」

2020年1月、総長ピッチチャレンジの最終ピッチが行われた。事前選考の結果、7チームがファイナルセッションに進み、進出を逃した8チームはチャレンジセッションにて当日発表を行った。ファイナルセッションでは、聴覚障害者向けスポーツ補助デバイスの開発を提案した大学院生のチームが総長賞に選ばれ、海外・国内のオーダーメイド研修などが副賞として贈られた。ファイナルセッションへの進出は逃したものの、その成長が評価され、チャレンジ賞を受賞した一瀬優菜さん(経営学部3年)は次のように振り返る。「もともと社会貢献に興味があり、途上国の貧困問題、教育問題をなんとかしたいと思っていました。このプログラムに参加したのは、自分が思っていることを実現するプロセスを学ぶためです。ピッチでは、途上国の人と人材不足に悩む企業とをつないで、教育から採用までを行うオンライン講座

を提案しました。約2か月という短期間で、自分の思いをビジネスプランにまとめる作業は大変でしたが、その過程を楽しみながら取り組んだことが受賞につながったのだと思います。これからもこの姿勢を大切にします。



表彰式での様子。副賞として研修旅行への参加権利などが贈られた。



経営学部3年 一瀬 優菜さん

学園全体で社会起業キャリア支援 起業までをシームレスに支援するプラットフォーム形成

CASE STUDY

立命館大学

2019年度より小学校から大学院までを通した社会起業家支援プラットフォームを始動させた立命館。このしくみの構築に至った問題意識と目的、今後の展開について聞いた。



財務部次長 酒井 克也

さかいかつや ●2004年立命館大学産業社会学部卒業。同年学校法人立命館に入職、立命館大学経理課配属。立命館アジア太平洋大学アドミニストレーション・オフィス、立命館大学財務経理課での勤務を経て、2016年5月から財務経理課長。2019年10月より現職。

社会起業家を養成し 大学の存在価値を高める

2019年9月に本学園は、「立命館・社会起業家支援プラットフォーム」*1「RIMIX」を始動しました。これはSDGsに代表される社会課題に対する学生・生徒・児童の問題意識と、そこから生まれるチャレンジ精神を、起業というゴールまでシームレスに支援するしくみです。この活動は財務部が中心となって推進しています。なぜ財務部がキャリア教育か? それは投資の一環として活動に関わっているからです。財務のミッションは「保有する資産を未来にどのようになかすか」を考へることにあります。これをふまえて、15年間の資産運用で得た収益をどこに投資するかを部内で検討しました。その結果

「社会課題の解決に挑戦する学生や生徒たちの支援こそが、大学の価値を最も高める投資先だ」という結論に至りました。検討の際は、社会における大学の存在価値を重視しました。これからの時代は、未来のあるべき姿を積極的に提起していく人材の育成が非常に重要です。そうした人材を社会に送り出し、社会の期待に応えることが大学らしい投資のあり方だと考えたのです。加えて、民間企業への就職や公務員のほかに、社会起業家という新たなキャリアパスを学生に示し、自分の問題意識をとことん突き詰めた挑戦を促したいとの思いもありました。

学園全体をカバーする 新たな支援の立ち上げ

RIMIXの始動に向けては、まず、すでに学園内で行われている社会課題を学ぶ授業や、その解決に取り組むプロジェクトなどの洗い出しから着手しました。学園全体につながりを持つ財務部だからこそ、学校種を越えた情報収集が可能だったと言えます。また、起業支援では、企業が持つノウハウや資金も必要です。ここでも財務の仕事を通して築いてきた企業

との関係が役立ちました。情報収集を通して課題も見えてきました。それは、学園全体をカバーする教育プログラムや資金援助のしくみがないことです。そこで、学園全体をカバーするファンドの立ち上げと併せて、学校種を越えて学生や生徒、児童が混ざり合って学べる場を新たに企画しました。それが「総長ピッチチャレンジ」です。学生や生徒は、企業による約2か月間の新事業創出支援プログラムを受講し、自分のプロジェクトをビジネスレベルにまでブラッシュアップして、総長にピッチをするコンテストに臨みます。今回は学園の高校生や大学生、大学院生の15チームが参加しました。プランの立案段階のチームから実証段階に進んでいるチームまで、事業化のフェーズは異なりますが、全ての参加者に成長が感じられ、今後への期待が膨らみました。

RIMIXの活動については、社会的インパクト評価、経済的リターン、教育的効果の3つの観点で検証することを考えています。これによって大学の社会的評価や事業化支援の精度、学生・生徒・児童の成長実感と挑戦意欲をさらに高めて、投資効果の最大化を図っていきます。

*1 Ritsumeikan Impact-Makers Inter X (Cross) Platform *2 新しいアイデアの提案。プレゼンテーションとは異なり、数分程度の短い時間で行う

取材・文/本間学 撮影/谷口哲